

令和8年度 コミュニティ・スクール太宰府小学校学校経営要綱

1 時代背景

① グローバリゼーションと分断

経済や文化等は自国で完結せず、国家間の相互依存の状態（≒グローバリゼーション）にあり、国家や組織間の相互調整が機能しないことで国家間・社会の中で分断が生じる。

② テクノロジーの発展

インターネットによって情報連携や個の発信が可能になった情報化社会から、AI やデータを用いて、さらなる個人の充実と持続可能な社会を両立できる社会に向かいつつある。

以上を踏まえると、社会に責任を持ち、相互の対立を調整する力や、新たな価値を創出する力が求められる。

2 太宰府小学校の教育目標

協働する太宰府の子どもの育成

(1) 「協働する太宰府の子ども」とは

課題解決や目的達成のため、友だちと共に、自分の力を精一杯発揮する、ふるさと「太宰府」を創る子ども

(2) めざす子ども像

本校では、知・徳・体のバランスがとれた次のような子どもをめざす。

【だ】 誰とでも協力できる子ども	<他者につながる力Ⅰ>
【ざ】 最後までやり抜く子ども	<自分と向き合う力>
【い】 いろいろなことに挑戦する子ども	<自分を高める力>
【ふ】 ふるさとを愛する子ども	<他者につながる力Ⅱ>

3 学校の教育目標達成に向けた本校の教育課題と経営課題

(1) 本校の教育課題

- 非認知能力のうち、「自分と向き合う力」「自分を高める力」が低い傾向にある。
- 基礎・基本の定着が十分ではなく、各学力検査で低位層に位置づく児童の割合が高い。
- 学習や対人関係に対する心理的不安を理由にした不登校児童の出現率が高い。

(2) 本校の経営課題

- 学校の教育目標・重点目標の視点から、カリキュラムマネジメントを推進する。
- 教育課題を組織的に解決するためのシステムを構築する。
- 教職員のウェルビーイングを向上させる。（職場の心理的安全性、良好な労働環境、保護者や地域との信頼関係、子どもの成長実感）

4 令和8年度の重点目標

4つの子ども像、8つの力を育てる学年チームの機能化

(1) 「4つの子ども像、8つの力を育てる学年チームの機能化」

本校では、以下の8つの力をもった、4つの子どもの姿（「だ」「ざ」「い」「ふ」）をめざす。

<4つの子どもの姿>	<8つの力>
【だ】・誰とでも協力できる子ども	→ ① 円滑にコミュニケーションを図る力 ② 他者とよりよくかかわる力
【ざ】・最後までやり抜く子ども	→ ③ 問題の解決をあきらめない力 ④ 自分のやるべきことを責任もって行う力
【い】・いろいろなことに挑戦する子ども	→ ⑤ 目標を立てる力 ⑥ 挑戦する力
【ふ】・ふるさとを愛する子ども	→ ⑦ 誰にでもあいさつする力 ⑧ ふるさと「太宰府」への愛着をもつ力

8年度 めざす子どもの姿（4つの子ども像と8つの力）

4つの合言葉	育てるべき力	具体的な子ども像
だ 誰とでも協力できる 子ども 【他者とつながる力Ⅰ】	① 円滑にコミュニケーションを図る力	友だちの考えを聞き、進んで自分の考えを伝える子ども
	② 他者とよりよくかかわる力	友だちに温かくかかわりながら、共に課題を解決する子ども
ざ 最後までやり抜く子ども 【自分と向き合う力】	③ 課題の解決をあきらめない力	途中で投げ出すことなく、粘り強くやり遂げる子ども
	④ 自分のやるべきことを責任をもって行う力	課題の解決に向けて自分の役割を自覚し、その責任を果たす子ども
い いろいろなことに挑戦する子ども 【自分を高める力】	⑤ 目標を立てる力	夢や目標、「めあて」をもつことができる子ども
	⑥ 挑戦する力	初めてのこと、苦手なことに対しても、やってみようと取り組む子ども
ふ ふるさとを愛する子ども 【他者とつながる力Ⅱ】	⑦ 誰にでも、自分からあいさつする力	学校や地域で、誰にでもあいさつする子ども
	⑧ ふるさと「太宰府」への愛着をもつ力	ふるさと「太宰府」や地域が好きな子ども

本年度は、学年が1つのチームとして、①同じベクトルをもち、②学年担任が協働しながら、③PDCAサイクルによって子どもを育てていく。

(2) めざす学校像・教師像、家庭像、地域像

めざす学校像	めざす教職員像	めざす家庭像	めざす地域像
子どもが通いたい、保護者が通わせたい、地域が支援したい学校	子どもの可能性を信じ、めざす子ども像の具現化に向けて挑み続ける教師	心身の健康を支える基本的な生活習慣と温かいコミュニケーションがある家庭	子どもを見守り、子どもや保護者がつながる地域

5 学年チームの機能化のための戦略

(1) 目標の共有化

子どもの実態等を踏まえ、4つの観点（だ・ざ・い・ふ）から学年の重点目標を策定する。

(2) 担任の協働

学年で設定した重点目標の達成のため、各教員の特長を生かした役割分担を行う。

(3) PDCA サイクル

重点目標の達成のための学年による具体的取組を決め（P）、実践を行う（D）。実践の結果について、四半期ごとに評価を行い（C）、改善を図る（A）。

<6月> 具体的取組の実施状況について取組評価を行う。（学年担任）→実施状況の改善

<9月> 取組の結果について結果評価を行う。（児童）→取組の改善

<11月> 具体的取組の実施状況について取組評価を行う。（学年担任）→実施状況の改善

<1月> 取組の総括的な結果評価を行う。（児童）→取組の改善

6 教育目標達成のための5つの柱

- I 授業改善を中核とした学力向上
- II 地域への愛着を育む学習活動
- III 自己を乗り越える3つの「チャレンジ」
- IV 安全・安心な子どもの居場所づくり
- V 学年チームを機能させる「学年テーマ研修」

7 教育目標達成のための具体的方策

(1) 授業改善を中核とした学力向上

ア 「太宰府小スタイル」の授業づくり

- ① 自分でつくる「めあて」のある授業
 - ・学ぶ構えとしての自分の「めあて」（「だ」「ぞ」「い」）
 - ・自分の興味・関心や、問題の解決の見通しに基づく自分の「めあて」
- ② ICT機器、ホワイトボード等を活用した「対話」
 - ・考えの「見える化」
 - ・問いかけによる相互理解
- ③ 3つの視点（i わかったこと、ii 今日のMVP、iii 次に・もっと学習したいこと）で書く7・5・3行の「ふり返り」

イ 特別支援教育の充実

- 個の実態を踏まえた「めあて」の設定と伸びの自覚
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
- 自立や社会参加を見据えた学習活動の充実

ウ 基礎・基本の徹底

- ランチタイム学習
- プラムタイム
- すき間読書、すき間AIドリル、家庭学習等、AIドリルの効果的活用
- 家庭学習の習慣化

(2) 地域への愛着を育む学習活動

ア 生活科、総合的な学習の時間における「ふるさと学習」の実施

- 生活科、総合的な学習の時間における、地域の「ひと・こと・もの」を教材とした体験型・探求型学習の単元開発（各学年1単元）
- 学習したことの積極的発信

イ 交通見守り隊、自治会の方へのあいさつの励行

- 地域の方も含めたあいさつチャレンジ
- 学期末、年度末の「ありがとう」週間

ウ 地域とのかかわりづくり

- 地域行事への参加奨励
- 全校朝会における自治会長さんのお話

(3) 自己を乗り越える3つのチャレンジ

ア 知のチャレンジ

- 計算（百マス計算）
- すらすら音読 ※ 百マス計算、すらすら音読とも、半期ごとの記録会

イ 心のチャレンジ

- 多読に挑戦（低学年－100冊、中学年－90冊、高学年－70冊）（読書100日）
- あいさつチャレンジ

ウ 体のチャレンジ

- 様々な跳び方や回数・タイム等に挑む縄跳びマスター
- 前年度の自分に挑戦するスポーツテストチャレンジ

(4) 安全・安心な子どもの居場所づくり

ア 教員及び友だちのアタッチメント機能の向上

- 朝と帰りのあいさつの「ふれ合い手遊び」
- 体育科の授業における身体的接触がある準備運動、鬼ごっこ等
- 「あいさつ+α」、名前を入れたあいさつ、「どうぞ」「ありがとう」のシャワーによるプチコミュニケーション
- 「元気タイム」を活用した集団遊びの推奨

イ 不登校対応

- 不登校の未然防止の取組
 - ・「福岡アクション3」の徹底（欠席者へのアクションの徹底）
 - ・不登校未然防止診断等を活用した子どもたちの状況把握（6月）
 - ・不登校コアチームによるスクリーニング会議の定期的開催
 - ・不登校兆候段階におけるケース会議や保護者面談の実施と共通認識に立った取組の推進
- 不登校児童への支援
 - ・オアシス教室の活用による子どもの居場所づくり
 - ・オンラインによる授業中継、とびゆめキャンパス、自宅プリント・AIドリル学習等、不登校児童及びその家族のニーズに応える多様な学びの提供
 - ・つばさ学級、キャンパススマイル、フリースクール等、関係機関との連携・協力

ウ 心の教育

- 道徳科の充実
 - ・共感的活用による心情追求に偏らない多様な活用類型の授業づくり
 - ・子ども同士の対話がある交流活動
 - ・これからの自分の生き方をじっくり考える「ふり返り」
- 人権・同和教育
 - ・「太宰府市9か年カリキュラム」「社会科カリキュラム」に基づいた授業の充実
 - ・人権学習の参観・懇談会による本校の人権・同和教育の啓発

(5) 学年チームを機能させる「学年テーマ研修」

ア 目的

- 教職員の同僚性を高め、指導力の向上を図る

イ 計画（毎週水曜日の研修日を充てる）

- 学年の重点目標の達成に関わること
- 5つの教育課題（i 学力向上、ii 不登校の未然防止・支援、iii あいさつ、iv 黙々掃除、v 家庭での学習習慣）解決に関わること
- 授業実践に関わること
- 研究授業に関わること
- 学力調査等、各種調査の分析に関わること
- カリキュラムの付加・修正に関わること 等

8 太宰府市の研究指定（保幼小連携）の推進

(1) 相互授業参観と懇談会の実施

- 保育所・幼稚園による小学1年生の授業参観
- 小学校による保育所・幼稚園の授業参観
- 保・幼・小の共通課題の共有化と解決

(2) プレイフル・ラーニングの実践化

- 基本概念を接地させる「遊び」とおとした学び
- 遊び、体験活動を重視した生活科、総合的な学習の時間

(3) 幼児・児童交流

- 保育所・幼稚園との共同学習の実施
- 入学予定児童へのメッセージ

(4) 入学予定児童に関する情報交換のシステム化

- 配慮を要する児童の観察及び該当児童に関する情報交換

9 教職員のウェルビーイングの向上

(1) 職場の心理的安全性の向上

- 管理職等による職員の困り感の把握と必要な支援の提供
- 学年主任及び管理職への「報・連・相」（報告・連絡・相談）の徹底と諸事案への組織的対応

(2) 働き方改革の推進

ア 勤務時間の弾力化

- 希望者を対象とした勤務時間の弾力化（指定日）
 - ・勤務時間 午前7時40分から午後4時10分
 - ・午前7時40分から8時10分までの課題対応活動
 - ① あいさつ指導及び児童の登校観察
 - ② 補充学習（欠席児童を対象）
 - ③ 不登校支援（家庭への迎え、家庭への電話、校門での待ち合わせ等）

イ クラブ活動、委員会活動時間の指導体制の工夫

- 担当教員の複数配置及び指導の輪番化による余白時間の捻出
 - ・毎月第1木曜日…運営委員会
 - ・学級事務等

ウ 週時制の工夫

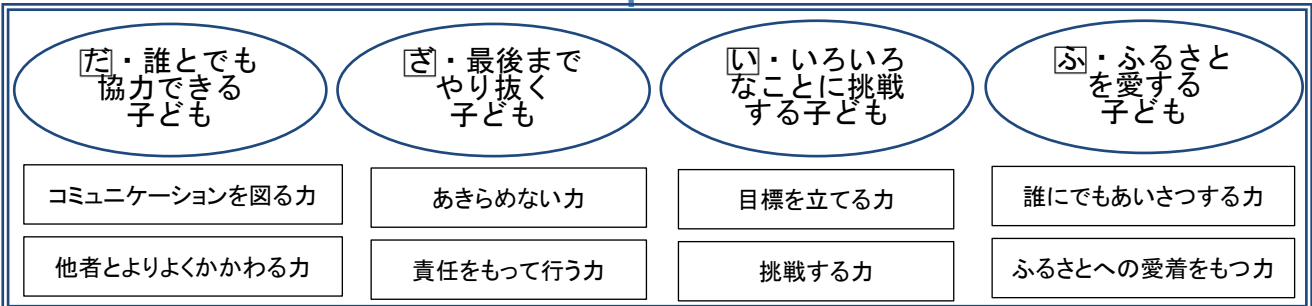
- 40分授業の効果的活用による放課後の余白時間の捻出

令和 8 年度

コミュニティ・スクール太宰府市立太宰府小学校学校経営要綱

学校の教育目標

協働する太宰府の子どもの育成



重点目標 4つの子ども像、8つの力を育てる学年チームの機能化

重点目標達成のための具体的目標・方策

【授業改善を中核とした学力向上】

- ア 「太宰府小スタイル」の授業づくり 自分の「めあて」、対話のある交流、ふり返り
- イ 特別支援教育の充実 個の「めあて」、UDの視点に立った授業、自立や社会参加を展望
- ウ 基礎基本の徹底 LT学習、AIドリルの活用、復習タイム、家庭学習の習慣化、CL等

【地域への愛着を育む学習活動】

- ア 「ふるさと学習」の実施 地域の「ひと・こと・もの」の教材化、地域人材の活用
- イ 地域でのあいさつの励行 地域の人へのあいさつチャレンジ、「ありがとう」週間
- ウ 地域とのかかわりづくり 地域行事への参加奨励、全校朝会での自治会長さんのお話

【自己を乗り越える3つのチャレンジ】

- ア 知のチャレンジ 計算、すらすら音読
- イ 心のチャレンジ 多読、あいさつチャレンジ
- ウ 体のチャレンジ 縄跳びマスター、スポーツテストチャレンジ

【安全・安心な子どもの居場所づくり】

- ア アタッチメントの向上 受容と共感、ふれあい手遊び、プチコミュニケーション 等
- イ 不登校対応 未然防止の取組、不登校児童への支援
- ウ 心の教育 道徳科の充実、人権・同和教育の充実

【学年チームを機能させる「学年テーマ研修」】

- ア 目的 同僚性及び指導力の向上
- イ 計画 毎週水曜日（研修日）
重点目標の設定と評価、学力向上に関すること、不登校対応に関すること等

<教職員のウェルビーイングの向上>

- 職場の心理的安全性の向上
- 働き方改革の推進

<保幼小連携の推進>

- 相互授業参観と懇談会
- プレイフル・ラーニングの実践化
- 生活科における幼児・児童交流
- 新入生に関する情報交換のシステム化